

令和4年度導入5校の実践から（馬込第三小学校、久原小学校、道塚小学校、大森第二中学校、大森第三中学校）

▶▶▶ 令和7年度（2025年度）までに約50%（小学校30校、中学校15校）を目指し、翌令和8年度（2026年度：5年度目）を目標に全校設置します。

- ▶ 地域の皆様のご協力をいただきながら、コミュニティ・スクールの拡充を検討します。
- ▶ 新しい地域を担う人財（PTAや部活動補助など）との協働関係が育まれます。
- ▶ 日頃から、災害時のボランティア人財（中学生など）との協働が生まれます。

学校を中心としたコミュニティの形成、地域力の更なる向上につながります。

実践校での成果

【モデル事業で得られたもの】
【学校や地域で起きた変化】

- ①地域の方々の「当事者意識」
→学校に気軽に声をかけていただく機会が増えた。
- ②学校の「敷居が低くなった」
→様々な機会に学校へ来ていただく機会が増えた（交流が生まれる）。
- ③地域人材の「人脈が広がった」
→地域の様々な方を紹介してくれる。

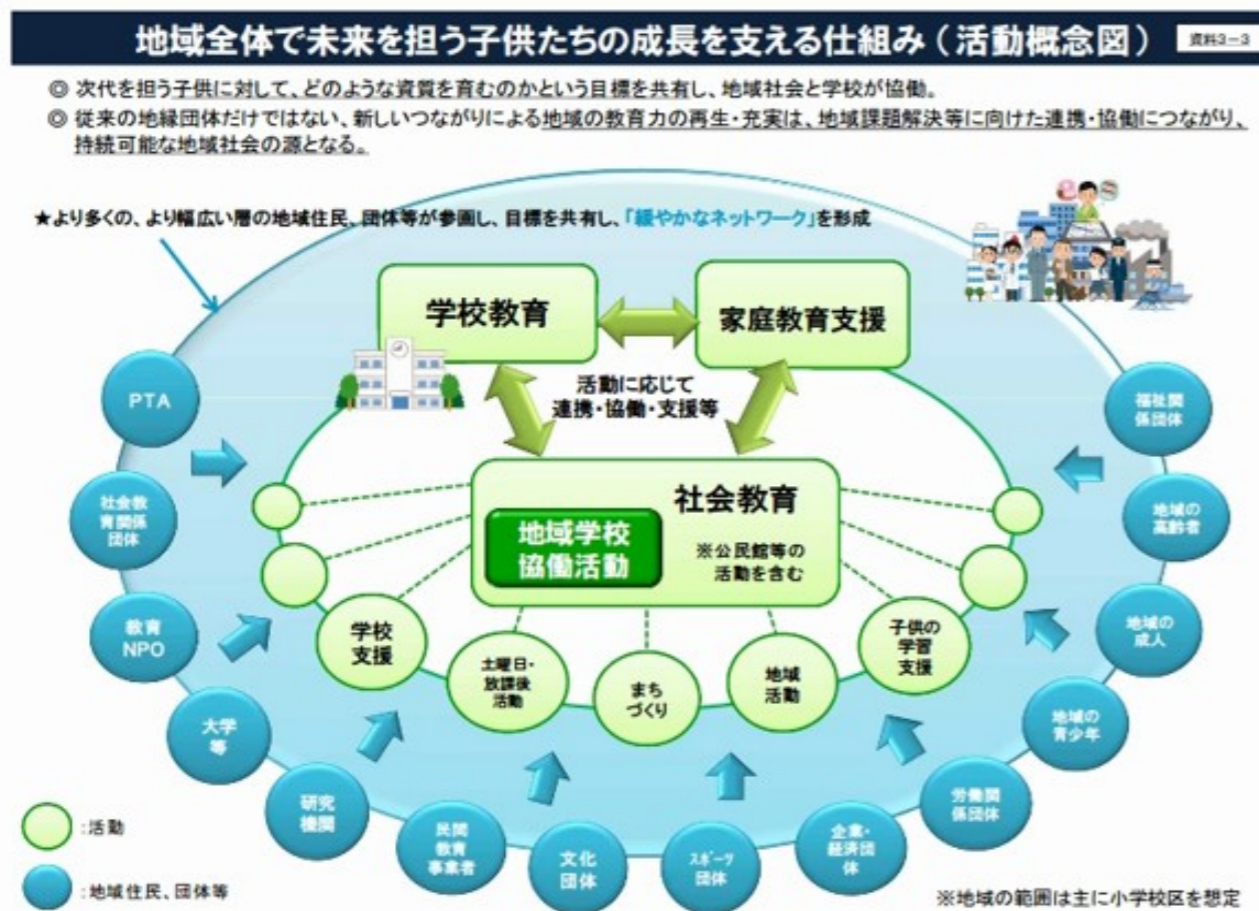
地域全体で
未来を担う
子ども達
(人財)の
成長を
支える

持続可能な
社会の実現

実践校での課題

- ①地域の方々の当事者意識
→学校運営に携わることで、地域へのメリットを感じてもらう。
- ②教職員の意識改革
→教員が地域との連携意識を持つ。
- ③様々な人財活用のための時間不足 → 時間の制約と、活用のための調整
- ④学校評価への関与の難しさ
→基準の理解、評価内容の検討

文部科学省ホームページ「学校と地域でつくる学びの未来」から抜粋



馬込第三小学校、久原小学校での取り組み事例抜粋

馬込第三小学校

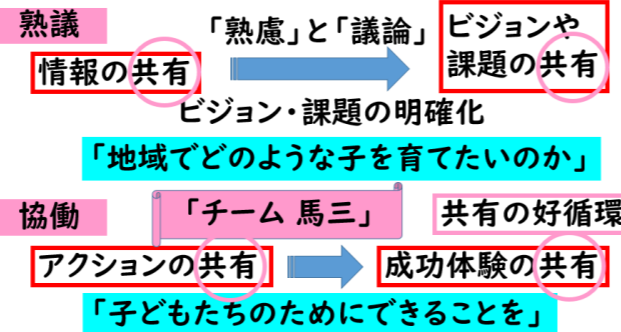
4 取組事例 地域学校協働活動



4 取組事例 地域学校協働活動



5 コミュニティ・スクール モデル事業の成果



4 取組事例 地域学校協働活動



6 モデル事業を進める中で見えてきた課題

- 既存の組織との関係
- 委員の選定
- 地域・保護者への周知
- 熟議で共有したことを協働に移すための連絡系統
- 予算・経費

4 取組事例 地域学校協働活動



7 今後の方向性

- 「子どもたちのためにできること」を考え
学校・地域・保護者が「チーム馬三」として
力を合わせて一体となって取り組んでいく
- ビジョン・課題・地域学校協働活動
- 1 「人と人の魂のぶつかり合いができる学校」
 - 2 「新しい馬三を創る」
- 学校運営協議会の在り方・進め方
- 1 多くの当事者による熟議の充実
 - 2 協働に移すための連絡系統の確立

4 取組事例 地域学校協働活動



【令和4年度の取り組み】

- 学校や地域の伝統を継承するための学校と地域等の連携について
- 改築を契機とした地域とつながる活用について
- 防災・減災に関する近隣企業との連携について

久原小学校

PTA活動



おやじの会



3 協議内容について

▶ 「豊かなスポーツライフを楽しめる子」

⇒令和2・3年度 大田区教育委員会 教育研究推進校
研究主題「豊かなスポーツライフを楽しめる子
～体育・健康教育における個別最適な学び・
協働的な学びの実現～」

▶ 学校課題等の情報提供及び意見交換

⇒久原小学校の実態・状況の実感を伴った理解（児童
（特別な支援を要する児童を含む）・教員・学校環
境等の様子）

4 今年度の成果

▶ 学校運営協議会の位置付けの共通理解

○「地域教育連絡協議会」→「学校運営協議会」としたこ
とにより、学校・保護者・地域住民等との連携・協働

▶ 学校支援地域本部の今後の役割の共通理解

○「学校支援地域本部」→「地域学校協働本部」への変更
により、役割を共通理解

▶ 地域の学校運営参画意識の向上

○CS・学校運営協議会の理解により、委員の活発な協
議・参画意識の向上



【令和4年度の取り組み】

- ICT教育に関する、タブレットの取扱いについて
- 学校関係者評価に関する評価の精査について
- 開校130周年行事の取り組みについて



道塚小学校、大森第二中学校、大森第三中学校での取り組み事例抜粋

道塚小学校

【令和4年度の取り組み】

- ウィズコロナにおける地域行事での学校との連携について
- 児童の体力向上に向けた、学校外の地域の活動場所・取組の紹介について
- 放課後ひろばの活動に係る学校との連携について

図書整備ボランティア



「道塚小図書館の会」の会議の開催

事例③

年間を通して児童にも指導助言

児童と友に栽培委員会 地域の方と栽培クラブ



もっと
授業に地域を活用して
社会に開かれた
教育課程を実現
**地域の教育力を活かす
それが地域とともにある学校
学校運営協議会と協力**



みちづか楽習会

数年・継続
苦手の克服

事例⑧

土日
ワークショップ



日本の踊り

事例⑨



夏のワクワクするスクール

もっと
授業に地域を活用したい！
社会に開かれた
教育課程を実現
校内研究とタイアップ



商店街、老人ホームも取材



30社以上の工場を情報収集

事例① 低学年国語科



読み聞かせ
(道塚お話し会週一回)

事例⑩



消毒ボランティア



日精機工

令和2年10月21日
3年生 社会科
「私運と暮らし」
取材・まとめ・検定問題
を作って発表しよう

大森第二中学校

学校運営協議会委員構成 (組織図・相関図等)



【令和4年度の取り組み】

- ジェンダー平等に基づく標準服の見直し・変更について
- 2学年の職場体験先の拡大について

取組事例1 英検・漢検運営

※今年度、学校運営協議会において、学校が抱えている課題を共有し、学校地域支援本部が主体となって、動いていた。



- 受検率アップ
- 教員の働き方改革(定時以後の監督)
- 学校地域支援本部の運営資金(準会場運営手数料)

取組事例2 授業支援

家庭科: ミシン作業



音楽科: 三味線教室



○地域人材の活用

取組事例5 開校記念プロジェクト

○大森二中の卒業生をお招きし、二中の歴史、二中付近の今昔を通し、講話をいただく機会。学校経営方針にある「地域の一人としての自覚」を育む教育活動である。

- 地域の卒業生の講話
- 中学2年生対象



取組事例4 部活動支援

ハンドメイド部: 着付け作業



○地域の方々の力を借りて、普段できないことを体験する機会

学校運営協議会のスタイル

- 私立学校の理事会のイメージ
(私立学校法で規定されている、学校法人の運営に責任を持って参画し、機動的な意思決定をする。という理事会の機能)
- 英検実施委員会
- 土曜学習教室実施委員会

プロジェクト推進型ではない。

【令和4年度の取り組み】
■ 部活の地域移行を見据えた、コミュニティ部活(現行料理部)の拡大について

大森第三中学校

大森第三中学校の特色1

子どもたちのイメージは
あいさつとボランティア活動

ボランティア活動

- ガーデンパーティー 日赤フェスタ
- 5丁目公園子どもまつりバザー
- 山王3/4丁目子どもまつり
- 読み聞かせボランティア 運動交流会
- 入二フェスタ 中央1丁目防災訓練
- 5丁目公園スポーツまつり
- 大森三中スポーツまつり 自治会連合会運動会
- 福祉園スペシャルDAY 大田区防災訓練
- ヤングフェスタOh! 盛祭
- 山王3/4丁目サバイバルマラソン 他

スクサポの活動内容

- 学習支援
職場体験/職業講話支援
図書館開放 土曜補習教室運営
英検/漢検の実施
- 学校環境整備
花壇/庭木の手入れ 校内消毒作業
- 地域連携
地域ボランティア活動支援 地域防災

料理部サポート

大森第三中学校の特色2

スクールサポート三中
学校の依頼に応じて、学校の教育活動を支援するしくみ。教育委員会が委嘱した学校支援コーディネーターが、依頼を受けて学校と地域人材や関係機関等とのコーディネート(調整)を行います。

